



竹内さんってどんな人？



スタッフ：垣内幸

アタマのいい人。

いわゆる読み書きなどの勉強ができる賢さというよりも、人の気持ちを理解することができる賢さといえるでしょうか。人が何に困っているかを察知してくれるんですね。私も何かあれば竹内さんという感じで頼りにしています。



利用者：山田さん

ものすごく優しい。

仕事に対しては厳しいが、人物はものすごく優しい。直感で思った。



スタッフ：杉浦理子

頼れる上司！

どんなに忙しいときでも、きちんと向き合ってくれて私の相談に乗ってくれます。介護の現場は、すぐに答えが見つからないような予想外の事態が起きる場所です。そんなときでも、じっくりと腰を据えて一緒に解決法を考えてくれるんですね。とても心強い存在です。



スタッフ：宮村美毅

やると決めたらやり抜く人。

以前、空気が目立った施設を「満床にする！」と宣言したら、本当にいっぱいになりました。施設内にある喫茶店の盛況も、竹内さんの力が大きいんです。どんな困難に遭遇しても、どうしたらうまくいくのかを考えて突破していく。彼女の「やり抜く力」を見習わないといけないな、と思います。

社会福祉法人 地域福祉コミュニティ ほほえみ



小規模多機能型介護施設として複合的な介護サービスを行います。デイサービスの部門では「あるけるデイサービス」を掲げ、歩ける方は歩き続けることができるように、歩けない方は再び歩く力を取り戻せるように、独創的な設備やノウハウを持ったスタッフが、一歩先行く介護サービスを展開していく予定です。

〒468-0020 名古屋市天白区平針南2丁目1002-1
TEL 052-807-4141 <http://hohoemi333.jp>

Official Facebook

フェイスブックで「社会福祉法人地域福祉コミュニティほほえみ」を検索して頂くか、右記のQRコードを読み取りアクセスしてください。



竹内三保子（たけうちみほこ）

愛知県出身

特技：場を盛り上げること

趣味：サイクリングや運動全般、
みんなでワイワイ騒ぐこと

好きな言葉：すこやかに心あわせて力の限り

尊敬する人：おじいちゃん

好きな映画：ショーシャンクの空に

好きな本：すてきな三にんぐみ

好きな場所：向が丘の施設内にある寄り合い茶屋

個人的な目標：チーズを食べられるようになること

ブログやってます！

ブログタイトル：「“みほりん”のケアマネジャー奮闘記」
<http://blog.livedoor.jp/tkuti333/>

プライベートの私

私のプライベートを
ちょっとだけ
ご紹介します。

体を動かすことが楽しい



昔から運動が好きで、休日はジムに出かけることも多いです。プライベートトレーナーについてもらって、ちょっと本格的にやっています。また、大学時代にはじめてサイクリングも継続中。学生時代ほど遠出はできませんが、最近では仲間たちと中山道の宿場町である馬籠まで行きましたよ。

親戚を集めて大騒ぎ



今の自分があるのは、これまで支えてくれた方々のおかげです。その感謝の気持ちを忘れないように、率先して親戚同士が集まる場所と時間をつくっています。放っておいても「おお、十年ぶり！」と賑やかな雰囲気になるのですが、イベント事を盛り上げることが大得意の私が幹事ですから(笑)、毎回大変な騒ぎになっています。

社会福祉法人
地域福祉コミュニティ ほほえみ
施設長
竹内三保子

ほほえみ選手名鑑



ボランティアさんの数120人以上！

地域との友好を影で支える、ほほえみの「おくりさん」

「おくりさん」とは、寺社の奥を預かる僧侶の奥さまのこと。客人を温かくおもてなしすること、寺社が人の集まる場所にする役割を担います。ソーシャルワーカー部の部長を務める傍ら、2013年10月に開設する新しい施設の責任者も任されている竹内は「ほほえみのおくりさんになりたい」と言います。彼女が思い描くおくりさん像とは、一体どのようなものなのか。地域福祉に情熱を燃やす竹内の半生を振り返ります。

原点

1975年、愛知県名古屋生まれ。3人目の子どもとして生を受けましたが、上の兄弟ふたりは幼くして病により他界。さみしそうな彼女を周囲が気遣ってか、自宅には毎日たくさんの人が遊びに来ていたそうです。起床したらリビングで知らない人が朝食を食べていて「誰だろう？」なんてことは日常茶飯事。近所の人と人とながら温かさや安心感。これが後に、地域を巻き込んだ福祉活動に取り組むことになる彼女のルーツです。

ターニングポイント

誰かの助けになる仕事に就きたいと考えた竹内は、福祉系の大学に進学。卒業後は病院で医療ソーシャルワーカーに従事します。続々と急患が運び込まれる戦場のような病院でした。どんな患者でも受け入れる方針だったため、他では断られてしまうホームレスのような入院患者も多くいました。竹内は彼らの話を親身になつて聞きながら、ときには忘れ物を公園のテントまで探しに行き、退院後の居場所を探して名古屋中をかけずり回りました。いつしか彼女は町で出会ったホームレスから「よう！」と声をかけられるほど慕われる存在になっていました。

そんな折、実家で目にした町内会名簿に竹内はショックを受けます。町民のほとんどが80代で、その中にボツンと若い自分の名前があったのです。一体誰がこの人たちのケアをするのだろうと思うと、居ても立ってもいられなくなりました。この出来事を境に「もつと地域福祉を学びたい」という気持ちが強くなり、大学院へ進学した方がいいのでは、と悩みます。そんなときに出会ったのが、ほほえみ代表の杉浦です。

ほほえみ入社

竹内の目指す地域福祉の土台にあるのは、地域に住む人々がお互いに心を通わせることで築かれる信頼関係です。理想とする介護の姿を想像するとき、「故郷の町に住む人はみんな知り合い。支え合うのが当たり前」という懐かしい日々を思い出さずにはいられません。杉浦はまさにそんな町づくりを、名古屋市天白区を舞台に展開しようとしていました。ここでなら夢を叶えることができると、転職を決断します。

しかし、決して楽な道ではありませんでした。営業先でパンフレットを破かれたこともあります。役場では「小規模多機能型」という当時先進的だった介護サービスへの理解が得られず、話すら聞いてもらえませんでした。人手が足りないときには、杉浦と交代で早番の現場に出ました。

夢を叶えるためにほほえみに来て、ようやくその花が開こうとしています。

現在

ほほえみの近所に梅酒作りが得意な60代の女性がいます。竹内は彼女の人柄を慕っていて、なんとかしてボランティア活動に参加していただけないかと考えていました。とても控え目な方で、普通に声をかけるだけでは、断られてしまうかもしれない。そこで竹内は作戦を練ります。腐らせた梅酒を持っていき「うまく作れなかった、あなたの力を貸してほしい」とお願いに行つたのです。すると女性は「仕方ないわね」といいながら、どこか嬉しそうに梅酒を毎年作ってくれるようになったのです。

そんなボランティアさんが、ほほえみには120人以上います。竹内は地域の一員として、ときに面倒を見て、ときにお世話になることで、施設と直接関係のない住民との間にコソコソと信頼関係を築いてきました。杉浦は「彼女がいなければ地域密着型の介護サービスは実現できない」と断言します。

施設内の喫茶店は連日賑わい、さらには「もし介護が必要になったら、ほほえみで世話になるからね。」と、その日を楽しみにしてくれる方まで現れました。竹内は地域の方を温かくおもてなす「おくりさん」として、今まで以上にその輪を広げて行くことでしょ。

竹内三保子 自筆年表

1974年 (0歳) 現在も古い町並みが残る、名古屋市西区で生を受けました。



1979年 (4歳) 活発で好奇心旺盛な子どもでした。ある日、立入禁止の工事現場に侵入。お尻にクギが刺さる大ケガを負いました。(笑)。

1985年 (10歳) 身長がグングン伸びていた私はバスケットボールを始めます。この頃には165センチに達していました。



1987年 (12歳) 男子生徒とよくケンカをしましたが、今でも同級生から「俺たち投げ飛ばされたよなあ」と言われます(笑)。

1991年 (16歳) 根っからのお祭り好き。たまたま見つけたお祭りで、盛り上がり、後先考えずに神輿に登ってしまいました。その姿がテレビ(ニューステーション)で放送され！(笑) 茶の間で見ていた父親が、それを偶然発見！怒られました…。

1995年 (20歳) 大学ではサイクリングにのめり込み、全国を走ってまわりました。



1997年 (22歳) 名古屋市内の病院に就職。あらゆる患者の受け入れを行っていたので、ワケありの方からの相談を受け持つことも多くありました。

1999年 (24歳) 自宅の九官鳥が気がかりだという患者さん。手術を受ける為に「じゃあ私が面倒見ます」と伝え、九官鳥の里親になりました。



2002年 (27歳) 杉浦社長に出会った年。「すごいデションの高い人だな」というのが第一印象。この直後に病院を辞めて、ほほえみに転職。社長との出会いがなければ全然違う人生になっていたでしょうね。

2004年 (29歳) 慣れない飛び込み営業の最中、目の前でパンフレットを破られたときはショックを受けました。

2006年 (31歳) この年開設の「グループホーム向が丘」。施設内の喫茶店は、地域交流の拠点となっています。



2013年 (38歳) 手塩にかけて育ててきた、生え抜きの大野君が施設長に昇格。大役への抜擢でしたが「やりますー」といつてくれたときはホントに嬉しかったです。